

# 岩村城主と家紋



上り藤に三つ目結

## Kagekado Kato **加藤景廉**

鎌倉幕府創業の功臣。治承4年(1180)源頼朝の挙兵に従って戦功を挙げて遠山荘など多くの所領を得た。子の景朝が遠山を名乗り、子孫は以後350年間に渡り遠山荘を治め、この地方の覇者となった。



丸に二つ引

## Kagetou Toyama **遠山景任**

戦国時代、遠山氏最後の岩村城主。織田信長の叔母を夫人に迎え、東濃地方に重きをなしたが、織田と武田が衝突する直前の元亀3年(1572)に病死。信長の五男御坊丸を養子として跡を継がせた。景任未亡人が後見したとも伝える(女城主)。



三階菱

## Torashige Akiyama **秋山虎繁(信友)**

武田二十四将の一人。元亀3年11月、信玄の西上作戦の一環として岩村城を攻撃。景任未亡人を妻とすることを条件に無血開城させ城主となった。天正3年(1575)長篠の合戦で武田が大敗すると孤立無援となり、織田軍を相手として半年に渡る籠城の末に落城、虎繁は長良川で磔にされた。岩村では大将陣が虎繁と夫人の処刑地であると伝えられている。



右三つ巴

## Hidetaka Kawajiri **河尻秀隆**

天正2年(1574)に鶴ヶ城の在番となって秋山虎繁と対峙し、元亀3年の岩村城攻めの主力として活躍。岩村城を与えられた。天正疎水の建設など現在の城下町の基礎を築いたとも伝えられる。天正10年(1582)、武田攻めの戦功により甲斐一国を与えて甲府に移るが、本能寺の変後武田家旧臣の一揆のため殺害された。



鶴の丸

## Ranmaru Mori **森蘭丸**

織田信長の小姓。金山(可児市兼山町)城主森長可の弟。武田氏滅亡後岩村城を与えられたとの伝承がある。本能寺の変で戦死した。天正12年(1584)の小牧長久手の合戦後、岩村城は蘭丸の弟森忠政の属城となり、家老各務兵庫に与えられた。



八段の鞆挟み

## Tadamasa Tamaru **田丸直昌**

伊勢国司北畠氏の一族。慶長5年(1600)2月、森忠政の転封の後を受けて岩村城主となった。石高は4万石。半年後の関が原の合戦では西軍に与した。直昌自身は大坂城に詰め、城は家臣が守り、妻木城などを攻撃したが、東軍が勝利した後に開城した。



鳶

## Ienori Matsudaira **松平家乗**

大給松平氏。岩村藩初代藩主。関が原の合戦の翌年、戦功により恵那郡25村、土岐郡6村合わせて2万石を与えられて岩村城に入城した。現在の岩村城は家乗の改修によるところが多い。慶長19年(1614)に卒し、龍巖寺(乗政寺)に葬られた。家督は子の乗壽が継いだ。



九本骨上がり絵繪扇

## Uzinobu Niwa **丹羽氏信**

寛永15年(1638)、松平乗壽の転封の後を受けて三河国伊保から入封。新屋敷や日ノ出町の開発を行い、現在の城下町は氏信のときに完成した。以後5代に渡り岩村藩主として続く。元禄15年(1702)にお家騒動が起こり、その咎によって越後高柳1万石に改易された。



## Noritada Matsudaira **松平乗紀**

大給松平氏の分家。乗壽の孫にあたる。元禄15年に小諸から入封。知新館の前身である文武所を開くなど、文教藩の基礎を作った。以後7代続いて明治維新を迎えた。歴代藩主は老中、若年寄、大坂城代など幕府の要職を歴任し、享保20年(1735)には西濃と駿河国で合わせて1万石を加増された。駿河領は、現在も友好関係にある静岡県藤枝市横内に陣屋(代官所)が置かれた。